

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		子ども教育学科		
科目名称	保育内容指導法（音楽表現）						授業形態		講義	
科目コード	750071	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	早川 純子								ICT活 用	
授業概要	この授業では、乳幼児の発達段階に応じた音楽表現を学び、音楽を通じた表現活動を体験することで、保育における実践力の向上を目指します。子どもの発達に対する理解を深めながら、「聴く」「歌う」「動く」「奏でる」「つくる」といった多様な音楽表現の観点から、音楽活動の意義と目的を考察し、保育現場で活かせる音楽的技術を習得します。 また、簡易伴奏法を取り入れ、前年度に学習した基礎的なコード進行を踏まえつつ、より実践的な伴奏技術の習得を目指します。簡単なコードを用いて様々な楽曲に伴奏を付けたり、子どもの声域に合わせてキーを調整したりする力を養います。									
関連する科目	事前に「ピアノ実技Ⅰ（基礎）」および「ピアノ実技Ⅱ（応用）」を履修し、ピアノ実技の基礎力を身につけ、鍵盤奏に自然していることが望ましい。また、「幼児と音楽表現」を履修し、コード奏を中心とした基礎的な表現力を身につけていることが望ましい。本授業と並行して、または履修後に「ピアノ実技Ⅲ（実践）」および「器楽合奏・音楽療法演習」を履修し、応用力を高め、実践的な力量を身につけることが望ましい。									
授業の進め方 と方法	毎回の授業において、理論と実技を行う。1回の授業の構成は下記の通り。 授業の前半で、発達段階や保育技術の理論を学び、後半では季節の歌・手あそび・簡易伴奏法をワークショップ形式で実践的に学習する。									
授業計画 【第1回】	第1回：導入（オリエンテーション） 豊かな音楽的表現力と人間性の育成に向けて、保育者として求められる資質・能力について学ぶ。									
授業計画 【第2回】	第2回：幼児の発達と表現（概論） 保育内容の領域「表現」の捉え方や音楽表現活動の意義について理解を深めるとともに、4月の歌に親しみながら、ハ長調の主要三和音の復習を行う。									
授業計画 【第3回】	第3回：音楽の基礎的な要素と音楽表現 呼吸と拍、テンポと強弱、拍子とリズム、形式とニュアンスといった音楽の基本要素について学び、5月の歌に取り組みながら属七の和音の復習を行う。									
授業計画 【第4回】	第4回：幼児の発達と音楽表現（発達段階別） 発達段階に応じた手あそびを取り上げ、6月の歌に親しみながら、ハ長調におけるコードネームの復習を行う。									
授業計画 【第5回】	第5回：聴く活動 「聴く」活動の意義とねらいについて理解を深め、子どもの発達に応じた音楽活動への援助のあり方を学ぶ。あわせて、7月の歌に取り組みながら、二長調の主要三和音の復習を行う。									
授業計画 【第6回】	第6回：歌う活動 「歌う」活動の意義とねらいについて理解を深め、基本的な楽器の奏法を学ぶ。あわせて、8月の歌に取り組みながら、二長調のコードネームとハ長調への移調の復習を行う。									
授業計画 【第7回】	第7回：歌う活動の援助 「歌う」活動における保育者のかかわりについて理解を深め、9月の歌に取り組みながら、ハ長調の主要三和音の復習を行う。									
授業計画 【第8回】	第8回：奏でる活動 「奏でる」活動の意義とねらいについて理解を深め、楽器の基本的な奏法を学ぶ。あわせて、10月の歌に取り組みながら、ハ長調のコードネームと移調の復習を行う。									
授業計画 【第9回】	第9回：奏でる活動の援助 楽器の選び方やリズム譜の基本について学び、11月の歌に取り組みながら、ト長調の主要三和音を習得する。									
授業計画 【第10回】	第10回：動く活動 「動く」活動の意義とねらいについて理解を深め、基礎的な身体表現を学ぶ。あわせて、12月の歌に取り組みながら、ト長調のコードネームと移調を学ぶ。									

授業計画 【第11回】	第11回：動く活動にあった援助 効果音やボディパーカッションを取り入れた活動を行い、1月の歌に取り組みながら、ハ長調、ニ長調、ヘ長調、ト長調の復習を行う。
授業計画 【第12回】	第12回：つくる活動 「つくる」活動の意義とねらいについて理解を深め、2月の歌に取り組みながら、調号が2つの調性について学ぶ。
授業計画 【第13回】	第13回：幼児の活動にあった援助(つくる活動) 効果音を使った音楽劇や即興表現あそび、手作り楽器を取り入れた活動を行い、調号が3つの調性について学ぶ。
授業計画 【第14回】	第14回：いろいろな音楽教育法 ダルクローズ、オルフ、コダーイ、シュタイナー、モンテッソーリの教育理論について学び、3月の歌に取り組む。
授業計画 【第15回】	第15回：まとめ 遊び歌と手遊びを復習し、あわせて和声の総復習を行う。
授業の到達目標	1. 幼児の発達段階や季節や機会に応じた歌唱、あそび歌、手あそびを数多く身につけること。 2. 「歌う」「聴く」「奏でる」「つくる」「動く」活動の技術を身につけること。 3. 主要三和音のコードフォームを習得し、簡易伴奏ができるようになるとともに、演奏する楽曲のキーを自在に変更したり、リズムのバリエーションを工夫することで、より高度な伴奏技術を身につけること。 4. 人前で歌ったり身体表現をすることに習熟すること。 * 授業での実践と自主練習を通し、着実かつ確実に習得する。
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	発達段階については、他の科目で学んだ内容も踏まえてしっかりと理解しておくこと。(30分程度)
授業時間外学習【復習】	手あそびやコードフォームの復習を怠らず、確実に身につけることを徹底する。(1時間程度)
課題に対する フィードバック	テストや課題は、評価後に返却し、解説を行います。
評価方法・基準	受講態度：60%、オリジナル手あそび作成課題：20%、筆記試験：20%
テキスト	櫻井琴音・上谷裕子 編著『第2版 アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現』(学文社) 大石みつ・下村幸・鳥居美智子 共編『楽しい歌とあそび』(音楽之友社)(※2年「ピアノ実技I(応用)」でも使用) 全国大学音楽教育学会 九州地区学会 編『ピアノテキスト』(カワイ出版)(※1年「音楽」および「ピアノ実技I(基礎)」でも使用)
参考書	『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館) 『保育所保育指針』(フレーベル館) 『幼児連携型認定こども園教育・保育要領解説』(内閣府・文部科学省・厚生労働省)
備考	